

5月17日（福祉科開科記念式典式辞）

未来の灯（ともしび）となる

初夏の若葉の中を爽やかな風が吹きわたっています。令和という新しい時代に、本校に福祉科が誕生し、口加高校の新たな時代の扉が開きました。本日の式典のテーマは“our departure”です。ここには口加高校が新しい歴史の創造に向けて出発する、という決意を込めています。

本日はご多用の中、また遠路から文部科学省初等中等教育局 視学官 矢幅清司 様、公益社団法人 日本介護福祉士会会長 石本 淳也 様をはじめ、多くのご来賓の皆様方、また本校ゆかりの皆様方のご臨席を賜り、長崎県立口加高等学校の福祉科開科記念式典をこのように盛大にまた華やかに挙行できますことは大きな喜びであり、心から感謝申し上げます。またこの式典の開催にあたり、多くの方々から過分なご支援を賜りました。高いところからではございますが、この場をお借りしてお礼申し上げます。

本校は島原半島の南端に位置し、1902年、明治35年に設立された私立の口之津女子手芸学校を前身として、創立以来117年という長い時を刻んでまいりました。この間、幾多の変遷を経て、地域に根ざした進学校として、そして伝統ある家政科教育校として、地域の信頼にこたえてまいりました。生徒たちは、教室での勉学はもとより、部活動や学校行事、生徒会活動、ボランティア活動にも積極的に取り組んでいます。伝統の家政科教育は、平成20年度に普通科の「生活創造コース」に引き継がれ、平成29年度には普通科の中に「グローバルコース」を創設し、今年度は国家試験である介護福祉士の受験資格を得ることができる「福祉科」を県内公立高校として初めて設置いたしました。口加高校は、大学や専門学校への進学、公務員や企業への就職など、多様な進路希望を持つ生徒たちの学び舎として、進化し続けています。

さて、本校が立地している南島原市には約46000人の人が暮らしています。そのうち65歳以上の方が占める割合、いわゆる高齢化率は、今年3月末現在で、38.4%と全国的に見ても高い水準で推移しています。2025年には高齢化率は42.9%となり、およそ2人に1人が65歳以上になれる時代はそう遠い未来のことではありません。2025年ごろには長崎県全体で介護福祉士が約1300人不足するという試算もあります。また、国立社会保障・人口問題研究所によりますと、今の高校生が30代半ばから後半になる2040年には、世帯主が65歳以上で一人暮らしの方の割合が、長崎県全体で約40%になると推計されています。まさに介護や福祉に携わる方の養成は待ったなしの課題となっています。このような現状において、介護の仕事は近い将来、電気やガスといったエネルギー分野と同様に、人々が安心して暮らすために不可欠な社会インフラになっていくと思われれます。本校への福祉科の設置はまさに時代のニーズであり、これからの社会を明るく光を灯す使命を担っています。

先月、福祉科の第1期生として17名が入学いたしました。国語や数学といった普

通教科に加え、福祉に関する専門的な教育を3年間で約1800時間受けることになります。さらに現場での介護実習を3年間で52日間予定しております。座学による知識の習得と実習による実践的な技術や技能の習得は、車の両輪のようなものです。生徒たちを受け入れてくださる施設の皆様方には大変なご負担をおかけいたしますが、どうか生徒たちをご指導賜りますようお願い申し上げます。

話題は変わりますが、先月、2泊3日の日程で新入生研修合宿を行いました。その中で毎年の恒例として、生徒たちが自分たちで考えて学級目標を立てることになっています。福祉科17名の学級目標は「相互扶助」でした。私はこの「相互扶助」という目標を聞いた時、それは17名の生徒たちが目指す学級の姿であると同時に、将来、「相互扶助の精神」に溢れた社会を築きたいという生徒たちの心の根っこにある思いであると、私は思いました。

福祉とは「しあわせ」や「ゆたかさ」を意味することばです。「しあわせ」や「ゆたかさ」をいつ、どんな時に感じるかは、それぞれの人の価値観や感性によるものですが、真の「しあわせ」や「ゆたかさ」は人と人とのつながりの中にこそあるのではないのでしょうか。誰かとともに生きているという喜び、誰かに生かされているという感謝、そして、誰かのために生きられるという歓び、その感性こそ福祉のこころだと、私は思っています。これは、口加高校の教育のモットーである「人を大切にする」ということに通じています。昨年度、本校の全校生徒数は239名で、そのうち何らかのボランティア活動に参加した生徒は延べ600名を超えました。手前味噌ですが、本校の生徒たちは心根がやさしく、他人への思い遣りに溢れる生徒たちばかりです。そして、今、私の目の前にいる267名の生徒たちは、私たち教職員はもとより地域の自慢であり、誇りです。そして、一人一人が未来の社会を明るい希望の灯で照らす宝です。

私たちは生きていれば誰しも老いを避けることはできません。そういう意味では、福祉は決して他人事ではなく、自分事として捉え、考えていかなければなりません。本校への福祉科の開科を契機として、全ての生徒たちの心に福祉の灯（ともしび）をともし学校でありたいと考えています。

結びになりますが、ここ南島原市は海や山に囲まれ、自然豊かな地域です。地域の方々も心温かく、豊かな社会資源にも恵まれています。この立地を活かして、地域の期待に応え、地域の未来をよりよいものに変えていく原動力となるべく、本校にしかできない福祉教育を展開してまいる決意です。どうか皆様方のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。生徒の皆さん、今年度の本校のキャッチフレーズは「口加で咲こうか！令和から始まる口加New Generation！」です。世界に一人しかいない「私」という花を咲かせるため、これからも努力を重ねてください。そして、みんなで一丸となって口加高校の新しい時代を切り開いて行こう。顔晴ろう、口加！！ 以上、式辞といたします。

令和元年5月17日

長崎県立口加高等学校長 狩野 博臣